

地 域 経 済 動 向

平成 28 年 8 月 30 日



内閣府政策統括官
(経済財政分析担当)

目 次

- 1 概況
- 2 分野別の動き
- 3 地域別の動向
 - (1) 北海道
 - (2) 東北
 - (3) 北関東
 - (4) 南関東
 - (5) 東海
 - (6) 北陸
 - (7) 近畿
 - (8) 中国
 - (9) 四国
 - (10) 九州
 - (11) 沖縄
- 4 主要指標
- 5 参考資料

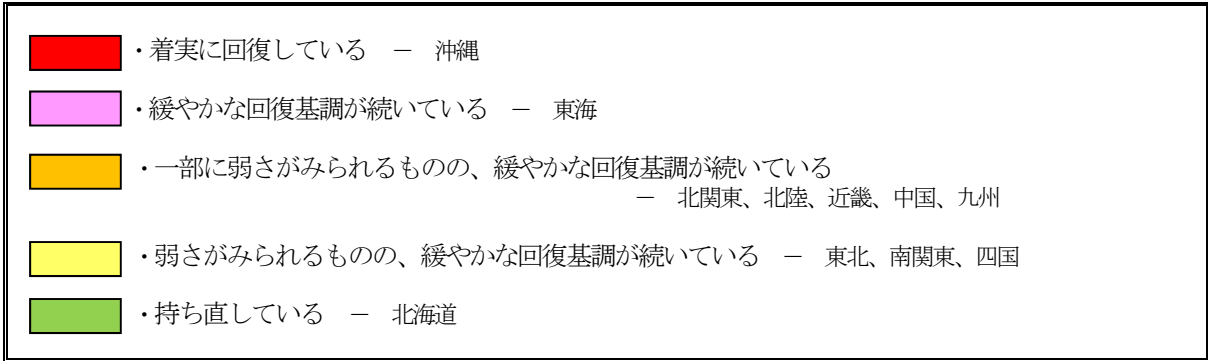
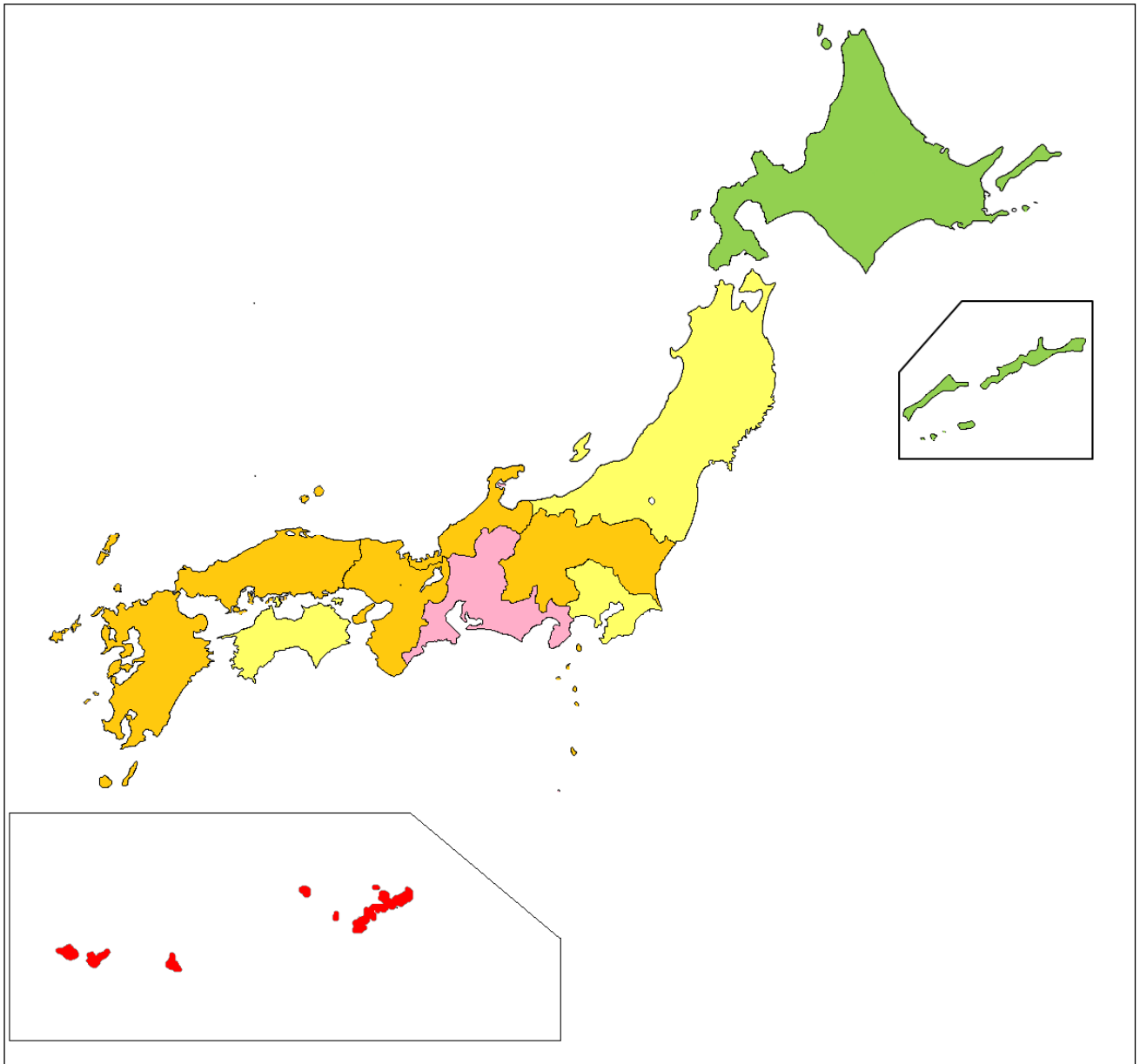
1 概況

(1) 各地域の景況判断

地域別の景況判断（景気の変化方向）は以下のとおり。

- ・北海道地域は、持ち直している。
- ・東北地域は、弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。
- ・北関東地域は、一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。
- ・南関東地域は、弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。
- ・東海地域は、緩やかな回復基調が続いている。
- ・北陸地域は、一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。
- ・近畿地域は、一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。
- ・中国地域は、一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。
- ・四国地域は、弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。
- ・九州地域は、一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。
- ・沖縄地域は、着実に回復している。

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、全体として緩やかな回復に向かうことが期待される。ただし、海外経済で弱さがみられており、中国を始めとするアジア新興国や資源国等の景気が下振れし、我が国の景気が下押しされるリスクがある。また、英国のEU離脱問題など、海外経済の不確実性の高まりや金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。さらに、平成28年（2016年）熊本地震の経済に与える影響に十分留意する必要がある。



(注) 上図は、景気の変化方向の記述（緩やかに回復している、持ち直している等）に基づき、分類・色分けしている。

(2) 各地域の景況判断と主要変更点

		北海道	東北	北関東	南関東	東海
景況判断	5月 (前回)	持ち直している	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている
	8月 (今回)	持ち直している	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	緩やかな回復基調が続いている
		⇒	↓	⇒	⇒	↑
鉱工業生産 (沖縄は観光)	5月	下げ止まりの兆しがみられる	おおむね横ばいとなっている	弱含んでいる	弱含んでいる	おおむね横ばいとなっている
	8月	下げ止まりつつある	このところ弱含んでいる	弱含んでいる	弱含んでいる	持ち直しの動きがみられる
		↑	↓	→	→	↑
個人消費	5月	持ち直している	持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる	持ち直しの動きがみられる
	8月	持ち直している	持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる	持ち直しの動きがみられる
		→	→	→	→	→
雇用情勢	5月	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している
	8月	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している
		→	→	→	→	→

(注) ↑は上方に判断を変更、→は変更なし、↓は下方に判断を変更。

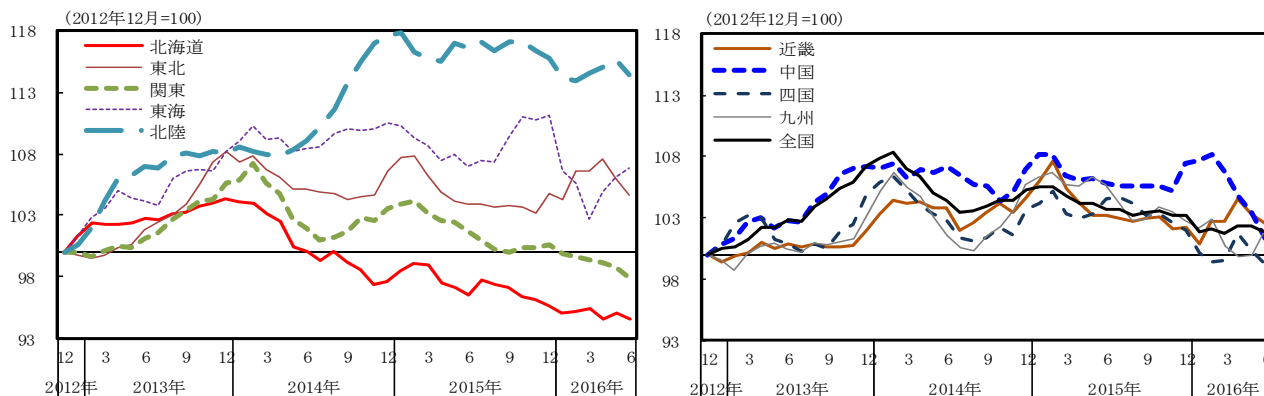
北 陸	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	緩やかな回復基調が続いている	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	着実に回復している
一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	着実に回復している
↑	⇒	↓	⇒	⇒	⇒
弱含んでいる	おおむね横ばいとなっている	おおむね横ばいとなっている	弱含んでいる	おおむね横ばいとなっている	堅調に増加している
おおむね横ばいとなっている	おおむね横ばいとなっている	弱含んでいる	弱含んでいる	熊本地震による影響がみられたものの、おおむね横ばいとなっている	堅調に増加している
↑	→	↓	→	→	→
持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる	持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる	弱含んでいる	堅調に増加している
持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる	持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる	弱含んでいる	堅調に増加している
→	→	→	→	→	→
着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している
着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している
→	→	→	→	→	→

2 分野別の動き

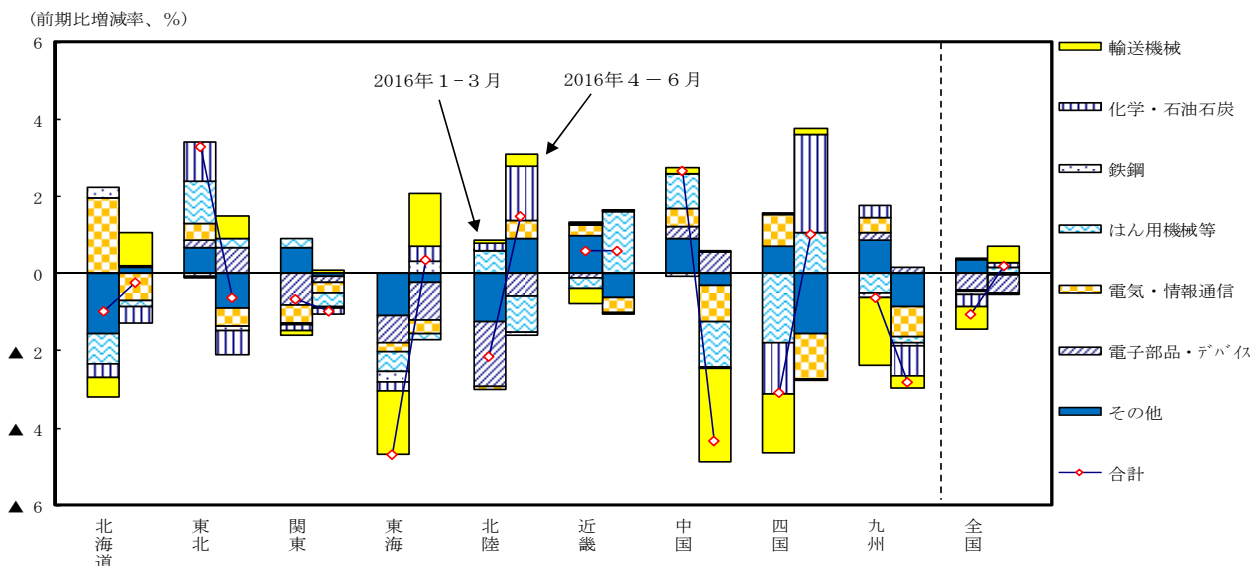
<生産> 東海は持ち直しの動き、北陸、近畿、九州はおおむね横ばい、東北、関東、中国、四国は弱含み、北海道は下げ止まりつつある。

- 鉱工業生産（季節調整値）について、2016年4～6月期の動きをみると、北陸（前期比1.5）、四国（同1.0）、近畿（同0.6）で前期比プラスとなる一方、中国（同▲4.3）、九州（同▲2.8）、東北（同▲0.6）ではマイナスとなった（図表1）。自動車部品等の輸送機械や化学（医薬品）の好調が増加に寄与した地域がみられた（図表2）。

図表1 鉱工業生産指数（季節調整値）の推移（中心3か月移動平均）



図表2 鉱工業生産指数 前期比増減率寄与度



（備考）図表1、2：経済産業省、各経済産業局、中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局「鉱工業生産動向」により作成。平成22年基準、季節調整値。

図表1：直近月は、2か月平均。

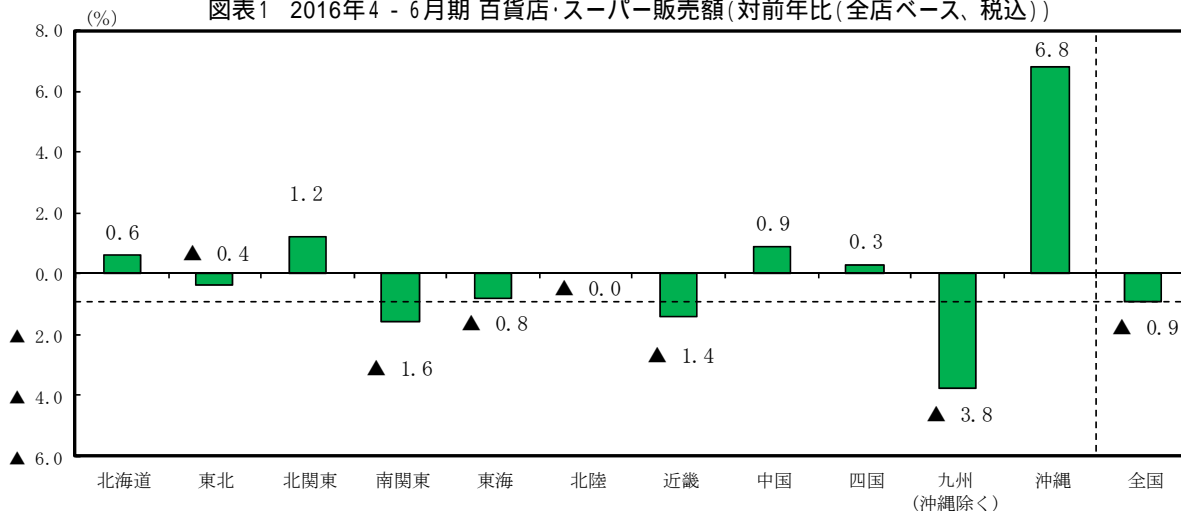
図表2：北海道の「はん用機械等」は「一般機械」。東北、北陸、四国、九州以外の「化学・石油石炭製品工業」は化学と石油・石炭製品を足したもの。北海道、北陸、四国、九州以外の「電気・情報通信工業」は電気機械と情報通信機械を足したもの。

<消費> 沖縄は堅調に増加。北海道は持ち直している、北関東、東海、中国は持ち直しの動き。東北、南関東、北陸、近畿、四国は足踏み。九州は弱含み。

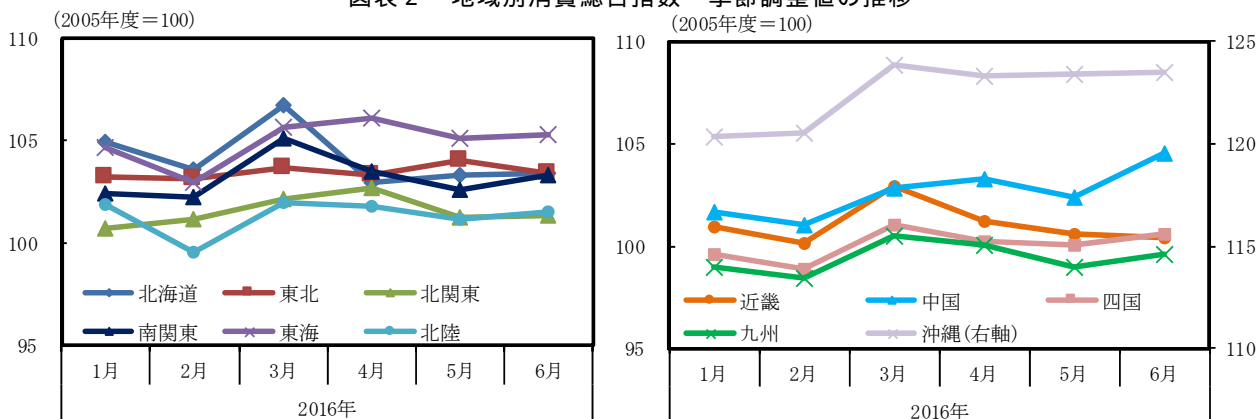
○ 消費について、2016年4～6月期の百貨店・スーパー販売額（全店ベース、税込）の前年比をみると、沖縄（前年比6.8）、北関東（同1.2）、中国（同0.9）等で全国（同▲0.9）を上回る一方、近畿（同▲1.4）、南関東（同▲1.6）、九州（同▲3.8）は下回り、持ち直しの動きがみられるものの、一部の地域では足踏みがみられる（図表1）。

○ 地域別消費総合指数（季節調整値）においては、多くの地域で持ち直しの動きがみられる（図表2）。百貨店売上高は、年初以降の衣料品や身の回り品（バッグ等）の不振等から低下した（図表3）。

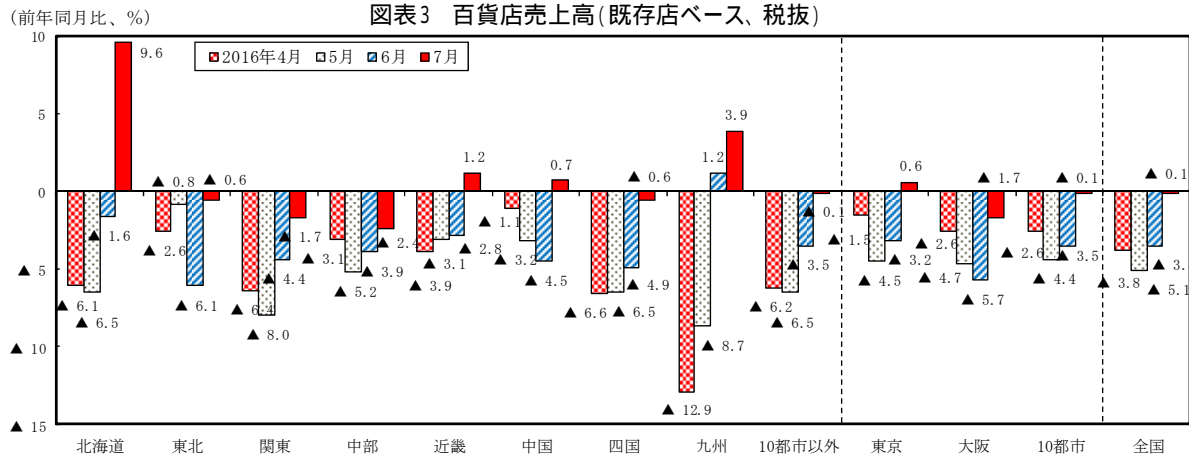
図表1 2016年4 - 6月期 百貨店・スーパー販売額(対前年比(全店ベース、税込))



図表2 地域別消費総合指数 季節調整値の推移



図表3 百貨店売上高(既存店ベース、税抜)



(備考) 図表1：経済産業省「商業動態統計」により作成。北関東は、茨城、栃木、群馬、山梨、長野、新潟、静岡。南関東は、埼玉、千葉、東京、神奈川県。東海は、愛知、岐阜、三重。北陸は、富山、石川、福井。

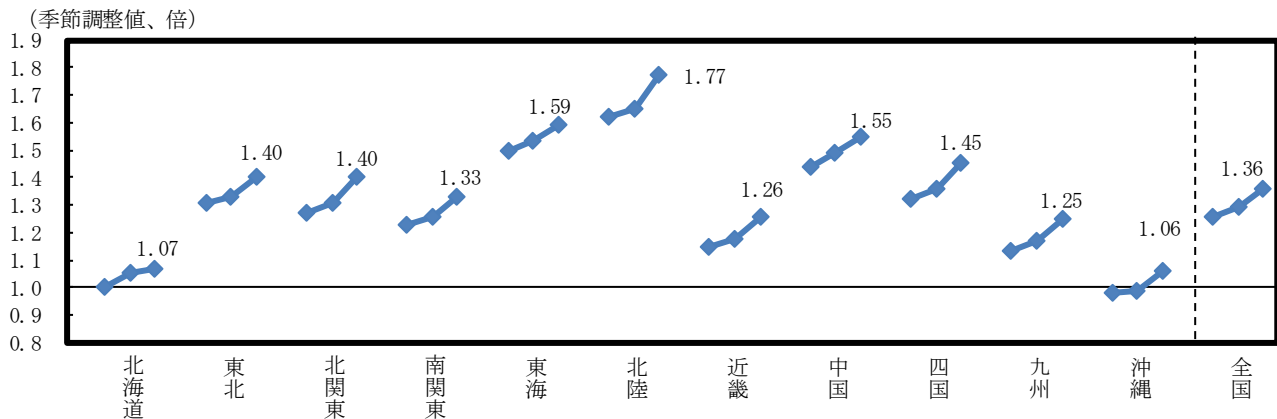
図表2：内閣府「地域別支出総合指数（RDEI）」により作成。季節調整値。

図表3：日本百貨店協会「全国百貨店売上高概況」により作成。10都市は、札幌、仙台、東京、横浜、名古屋、京都、大阪、神戸、広島、福岡の合計。各地区の売上高は、10都市の売上高を除いたもの。

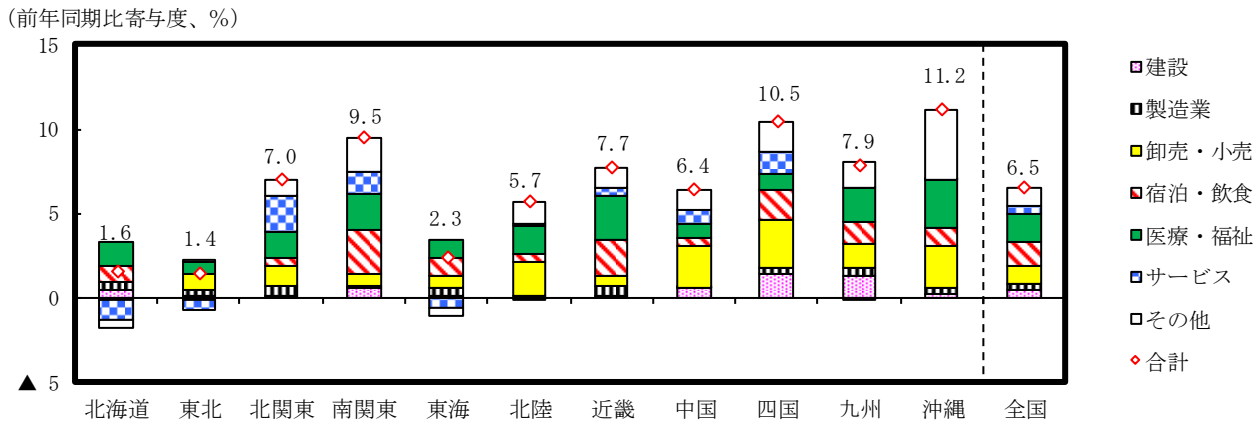
< 雇用 > 雇用情勢は着実に改善。

- 雇用情勢について、2016年4～6月期の有効求人倍率（就業地別・季節調整値）をみると、北陸（1.65→1.77）、北関東（1.31→1.40）、四国（1.36→1.45）をはじめ、全ての地域で上昇した（図表1）。
- 新規求人数について、地域別にみた業種別寄与度をみると、医療・福祉、製造業は、全ての地域で増加した（図表2）。
- 失業率をみると、東北（前年同期差▲0.4）、九州（同▲0.4）等で低下したが、沖縄（同0.3）、近畿（同0.1）、四国（同0.1）では上昇した（図表3）。なお、沖縄県は、完全失業者の増加により4月の失業率が前年に比べ高くなったものの、5、6月は前年並みとなっている。

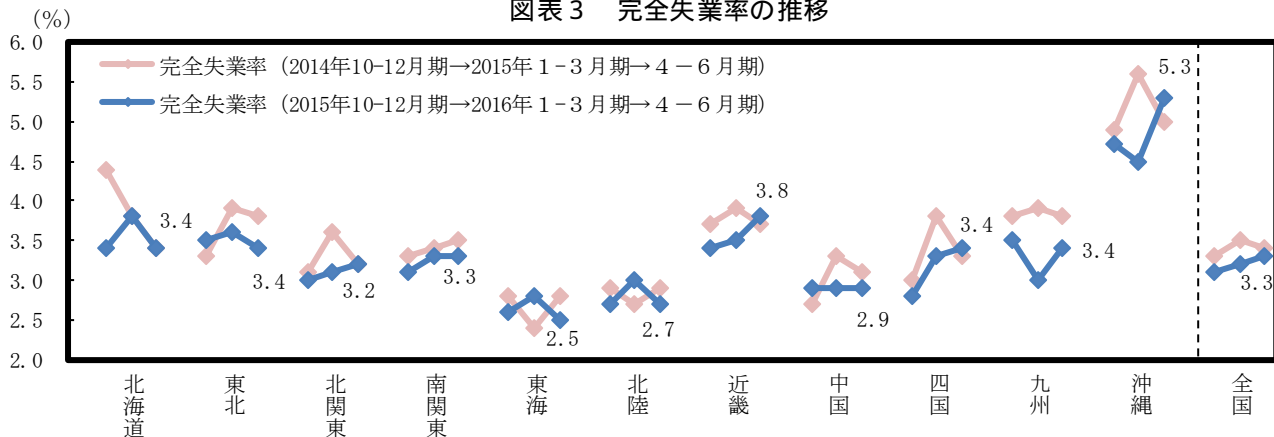
図表1 有効求人倍率（就業地別）（2015年10-12月期 2016年1-3月期 4-6月期）



図表2 新規求人数の前年同期比産業別寄与度（2016年4-6月期）



図表3 完全失業率の推移



(出所) 図表1：厚生労働省「一般職業紹介状況」により作成。
 図表2：厚生労働省提供データにより作成。
 図表3：総務省、沖縄県「労働力調査」により作成。

○ その他の指標の動き

